

1. 論文の種別

『政治社会論叢』における投稿論文の種別は次の通りとします。

- (1) 独立論文 20,000字又は8,000 words
- (2) 特集論文 20,000字又は8,000 words
- (3) 研究ノート 20,000字又は8,000 words
- (4) 資料 20,000字又は8,000 words
- (5) 書評 2,000字又は800 words
- (6) 書評論文 12,000字又は5,000 words

このうち査読による審査対象は (1) (2) (3) (6)。(4) (5) は編集委員会で採否を決定します。

2. 投稿論文のテーマ

投稿論文のテーマは次の通りとします。

- ①政治社会に関わる研究
 - 政治学、社会学に分類される研究（例：選挙研究、政治過程論、社会運動論）
 - 政治現象を対象とした研究（例：世論研究、投票行動、官僚制研究、国際社会学）
 - 社会現象を対象とした研究（例：移民研究、メディア研究、マイノリティ研究）
 - 政治社会（何らかの権力関係、影響関係が行使されている社会的関係（習合的な人間関係））を検討したもの（例：社会階層論、貧困研究、エスニシティ研究）
- ②異分野融合・連携型（multi-disciplinary）の研究
 - 2つ以上の分野が連携して行った研究（例：移民の学際的研究、グローバル・ガバナンスの学際的研究）
 - 2つ以上の分野が融合して新たに1つの分野を構築してる研究（例：政治社会学、歴史社会学、教育社会学）
- ③課題提示型・課題解決型の研究
 - 現代社会の課題を提示する研究（例：情報化社会の課題、科学技術社会論）
 - 現代社会の課題を解決する研究（例：SDGs、公共政策に関わる研究）

3. 特集論文

政治社会学会の今後

12月10・11日に九州大学で政治社会学会2022年度研究大会「複合危機下の政治社会-ポスト・コロナとポスト・ウクライナを見据えて」が開催されました。学会全体と特に最後のセッション「政治社会学会の今後」では、複合危機の時代、ウィズ・コロナ

とポスト・コロナ時代において、地球環境問題や持続可能性のあるグローバル社会の構築に向けて、本学会としてどのように対応し、研究活動を進めていけばよいか、議論されました。こうした議論を続けるべく、第8号の特集論文のテーマも「政治社会学会の今後」とし、より多くの方々から、マルチディシプリナリー、トランスディシプリナリーな観点も含め、さまざまなご論考を募ることになりました。皆様のご投稿をお待ちしております。（特集論文担当 ウヤル榎林 アイスン）

4. 締切日

論文の投稿締切日2023年5月8日とします。

5. 投稿窓口

<https://forms.gle/x7xyu2XQAM4DCKpcA>